

2020年度の振り返り

情報基盤センター 田浦健次郎

内容

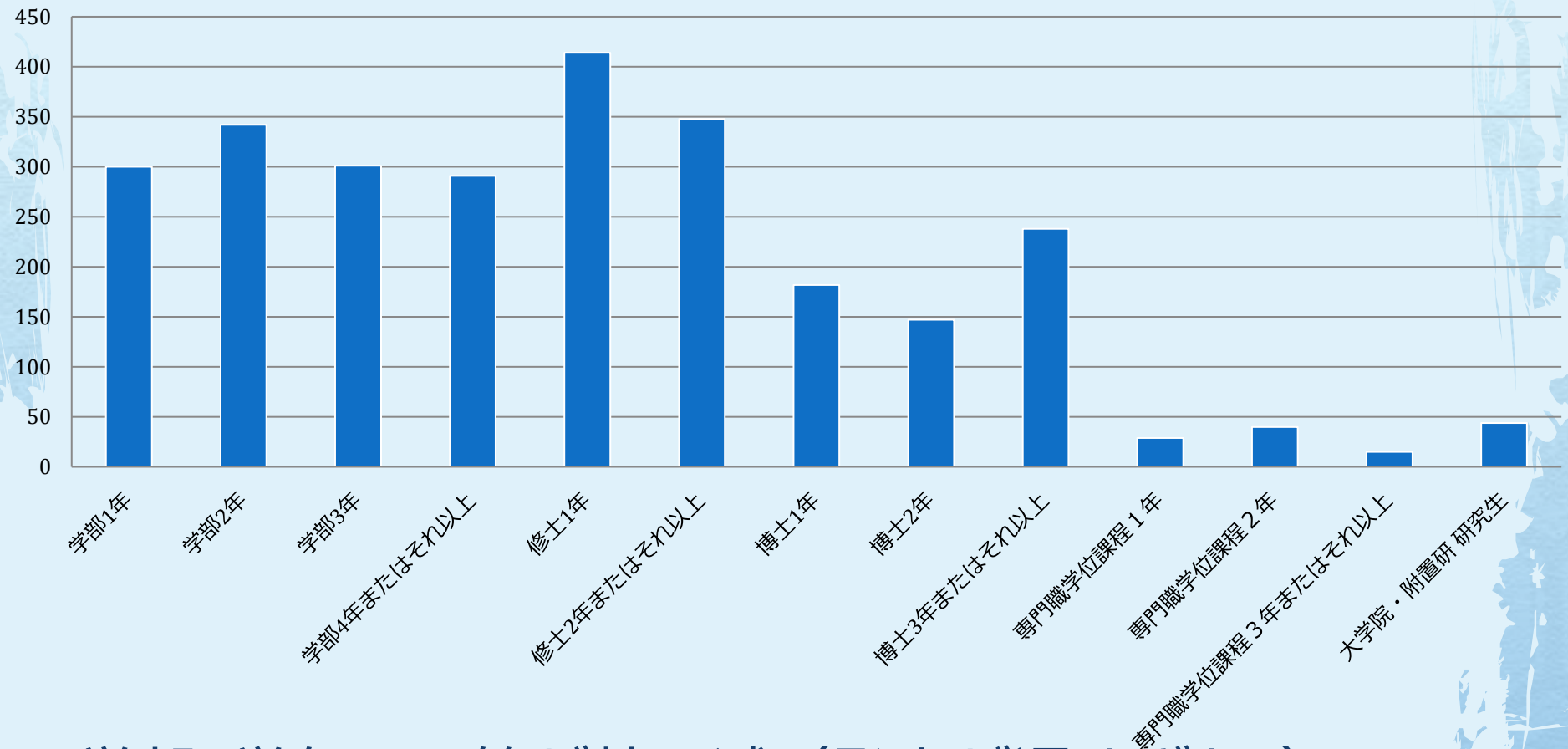
- ◆ Aセメスタ末の授業アンケートの結果を紹介
- ◆ 授業に対する評価
- ◆ 授業実施形態・登校について
- ◆ 学生の不安・苦痛について

授業アンケート

- ◆ 「オンライン授業・在宅研究に関するアンケート（教員以外向け）」
- ◆ 1/30 - 2/14 (その後も2/22ごろまで受付)
- ◆ 回答数 2706 (前回5702)
- ◆ うち授業を1つでも受けた人の回答2073 (前回4822)

回答数（学年別）

回答数

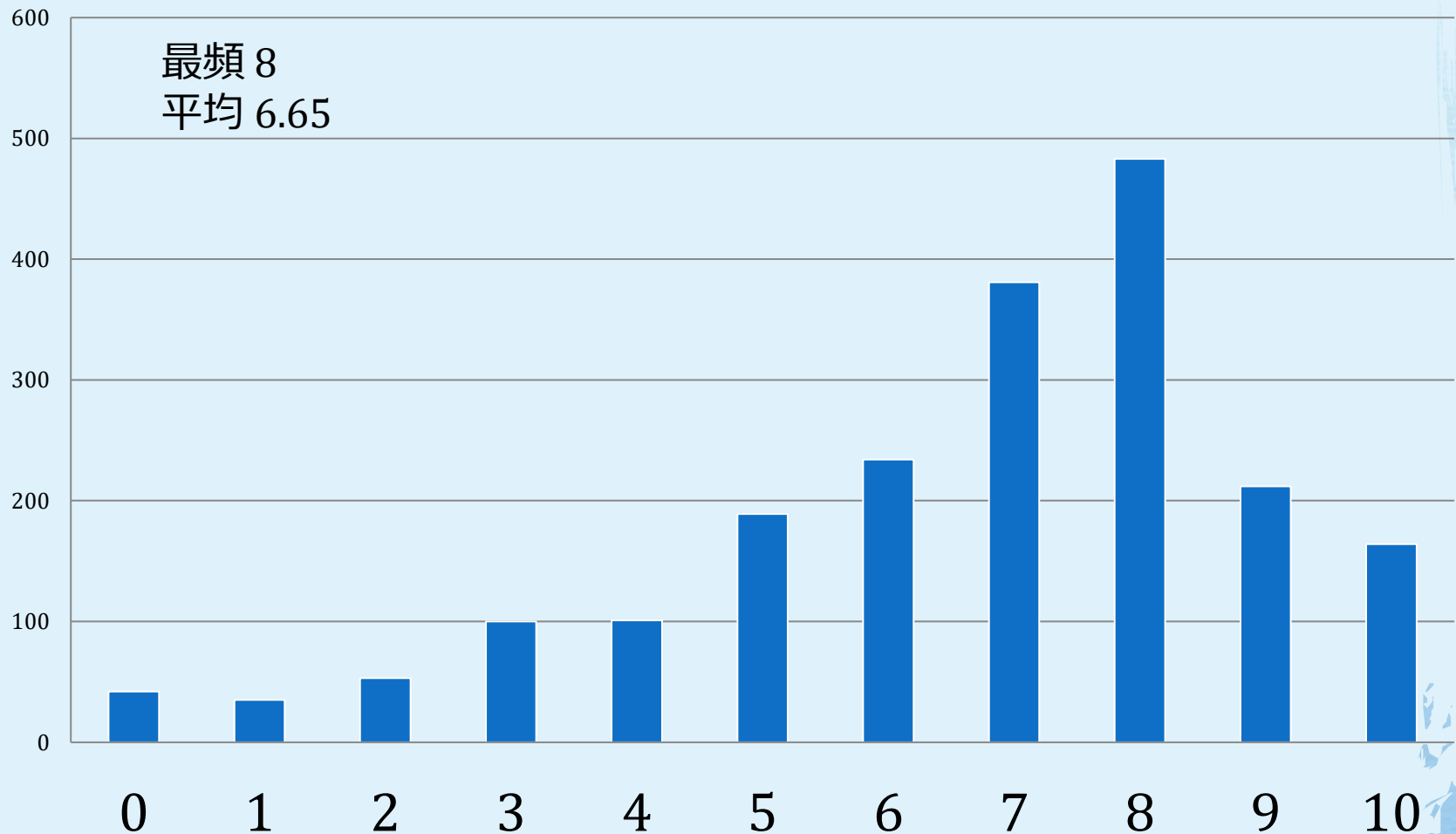


◆ 学部1学年の回答が特に減（発出が遅すぎた?）

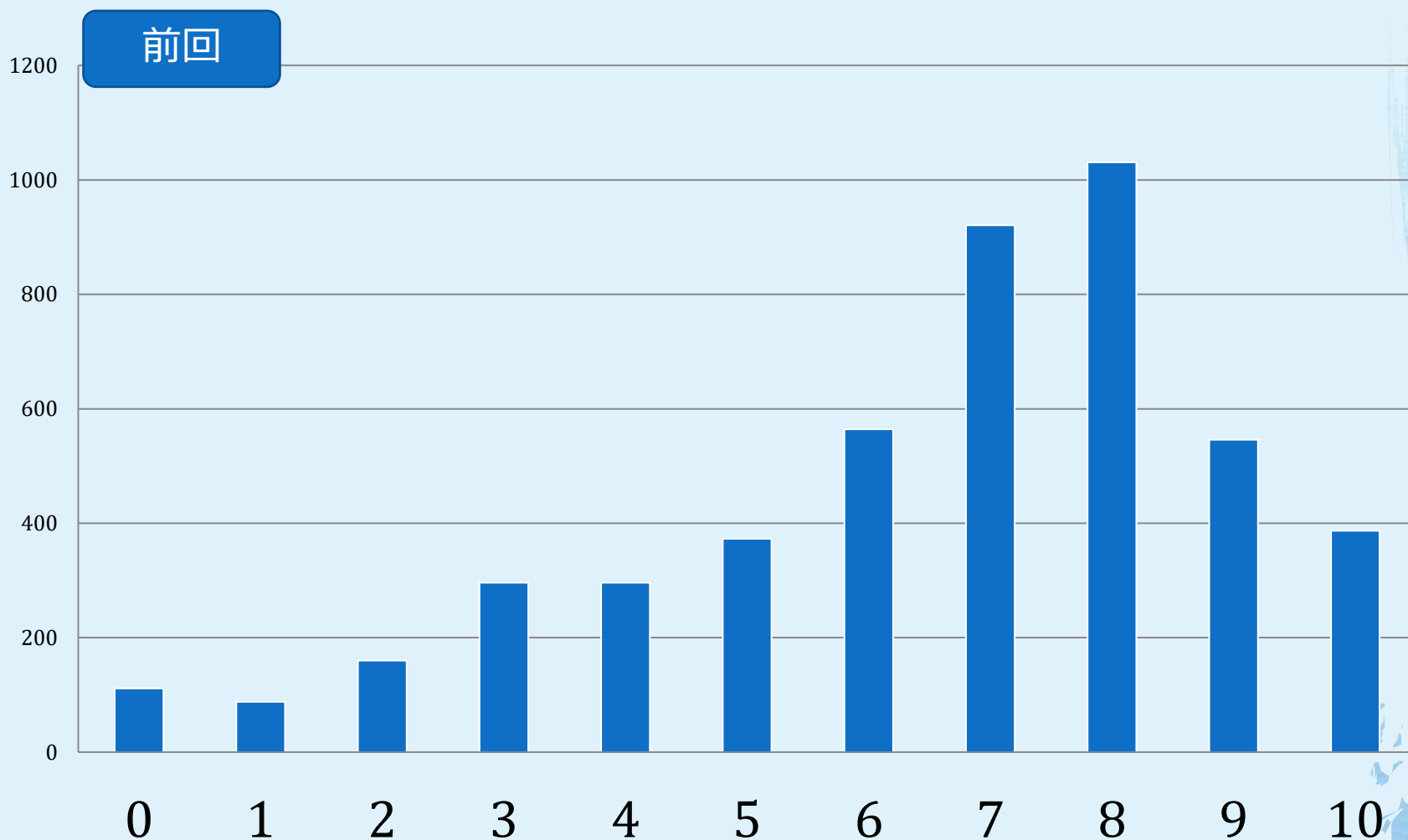
内容

- ◆ 授業に対する評価
- ◆ 授業実施形態・登校について
- ◆ 学生の不安・苦痛について

Q. 2020年度のAセメスターでは、オンライン方式以外の授業も行われましたが、Aセメスターの授業全体に対する、あなたの総合的な評価を教えてください。



Q. この3か月間のオンライン授業に対する、あなたの総合的な評価を教えてください（0-10）。



Q. オンライン授業の形式ごとの評価を教えてください

◆ 選択肢：

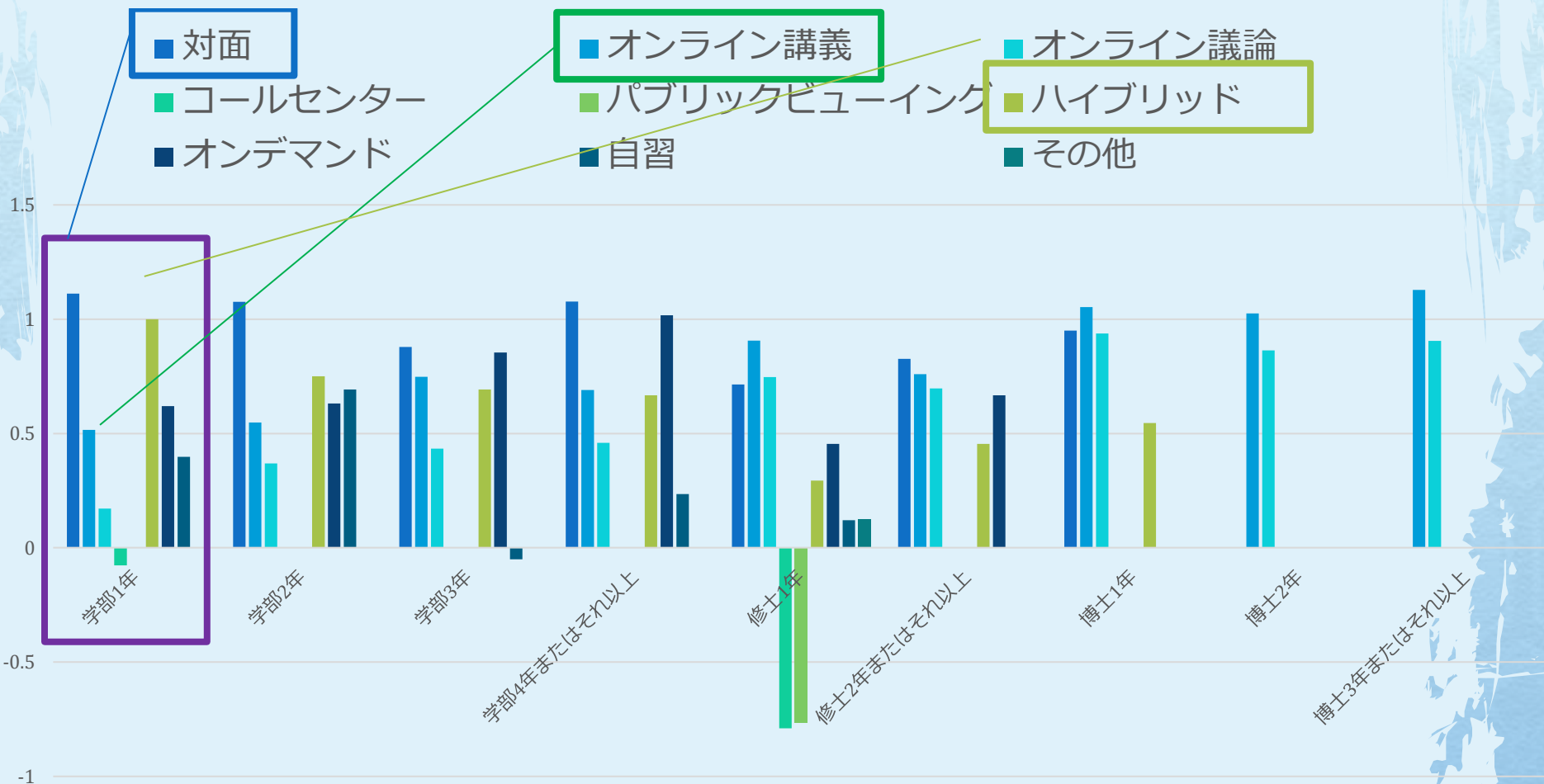
- ◆ 全く良くなかった (-2)
- ◆ 良くなかった (-1)
- ◆ どちらともいえない (0)
- ◆ 良かった (1)
- ◆ 大変良かった (2)

形式

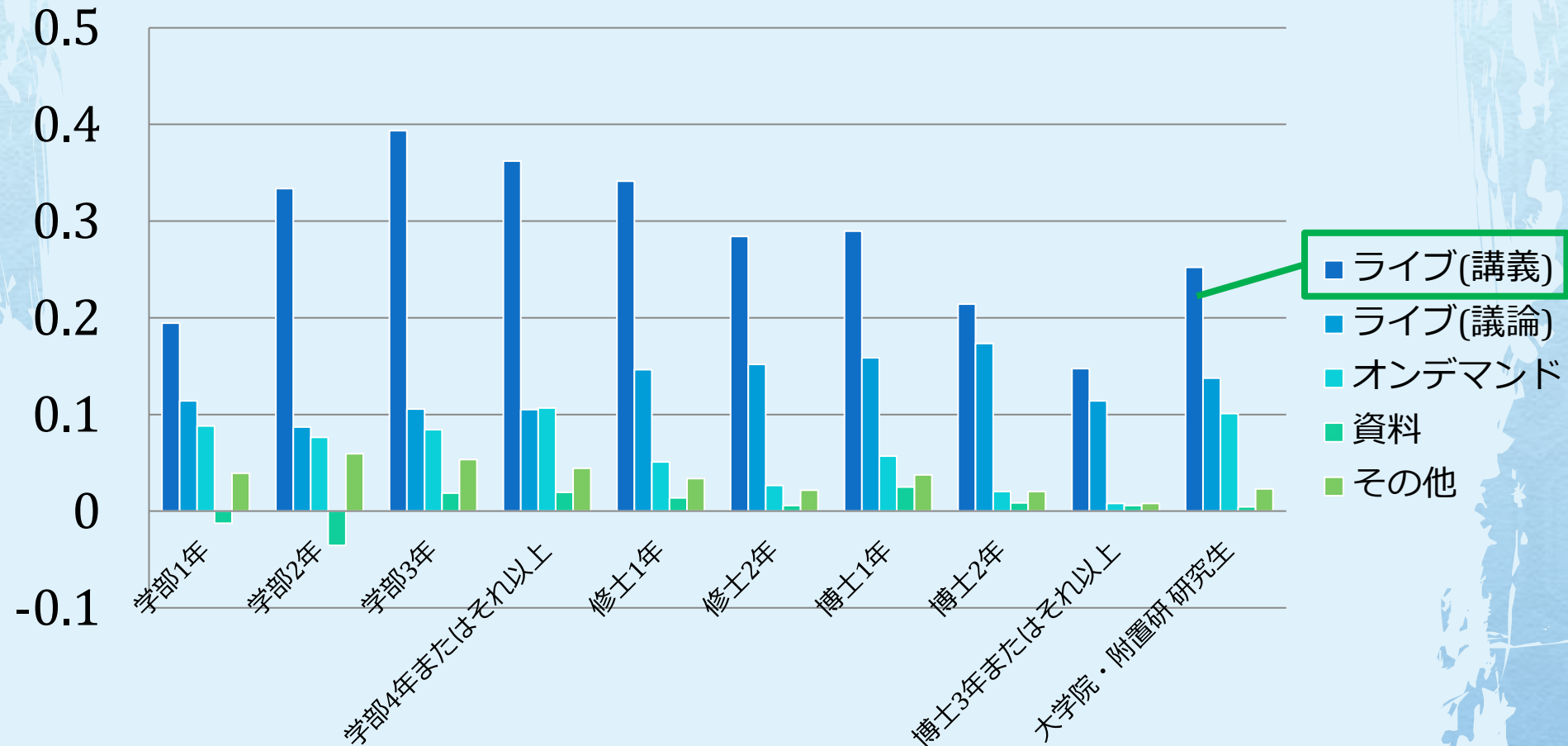
- ◆ 対面：教員も学生も教室
- ◆ ライブ（講義）：教員による講義中心
- ◆ ライブ（議論）：学生による議論中心
- ◆ コールセンター：学生だけ教室でZoom
- ◆ パブリックビューイング：学生だけ教室でスクリーン視聴
- ◆ ハイブリッド：教員は教室、学生は教室でも家でも
- ◆ オンデマンド：録画されたビデオの配信
- ◆ 次週：資料配布と自習中心
- ◆ その他：上記の混合など

形式・学年ごとと評価値平均(-2~2)

◆ 注: $N < 10$ は0で表示



前回

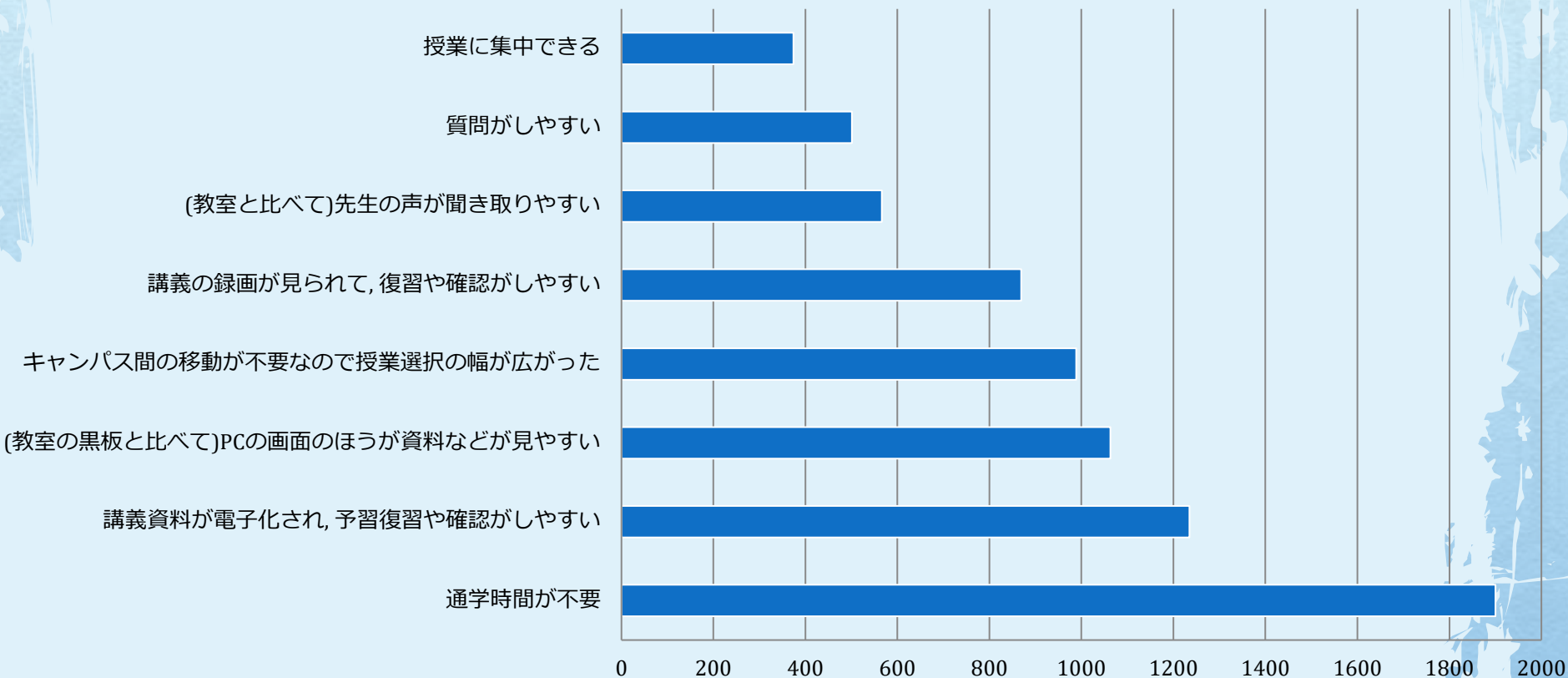


SとA比較

- ◆ オンライン形式の評価: 同じか向上
- ◆ 対面、ハイブリッド（Aセメスタ）の評価はオンラインより高い
- ◆ ただし個別の講義（例えば大教室講義）で対面とオンラインのどちらが良いかという質問ではないことに注意
- ◆ オンラインで、教室のキャパ超えの授業が可能になる、他学科聴講の促進など良い面があることも考慮が必要

オンライン授業の良かった点

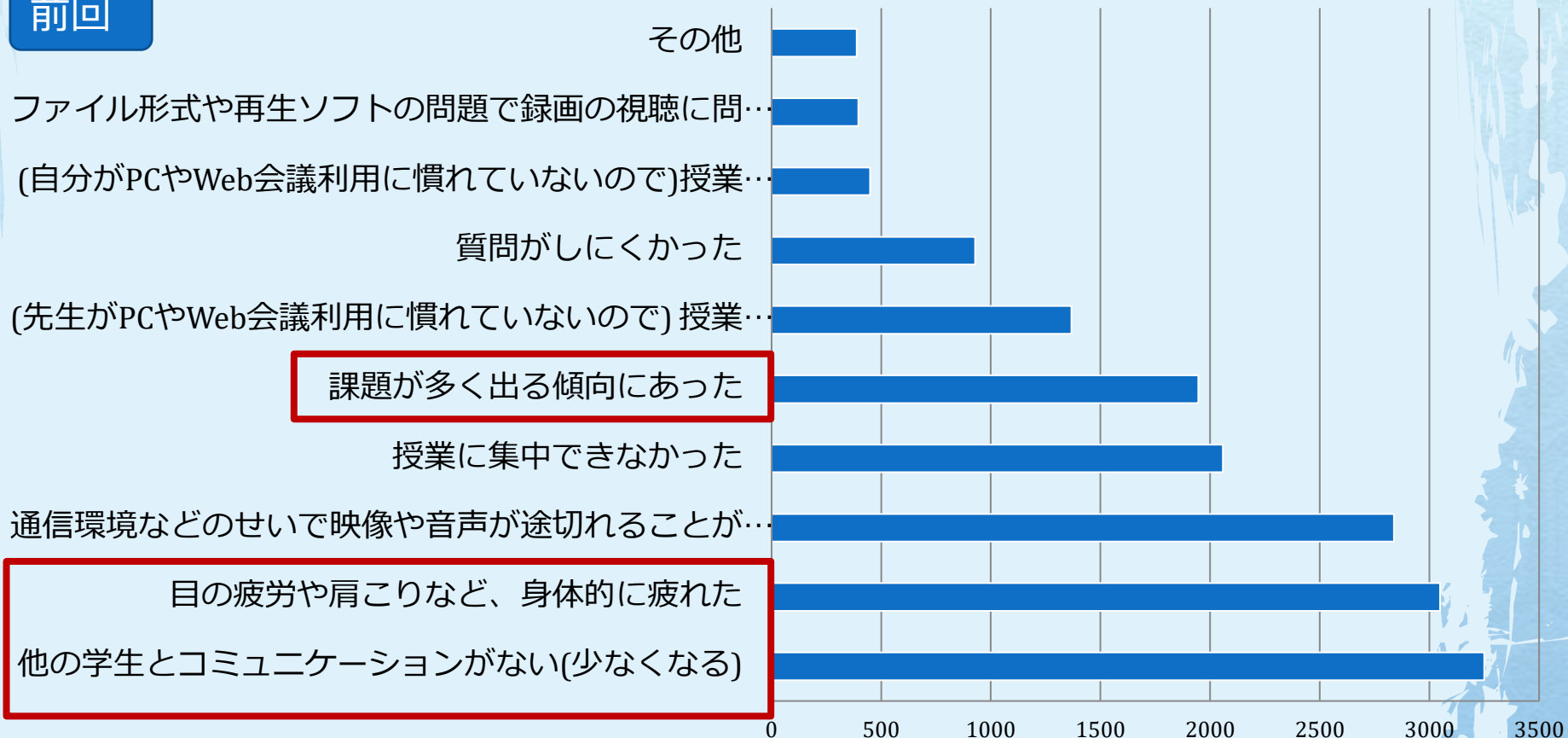
- ◆ オンライン授業が、対面授業より良いと感じた点にチェックをしてください(複数選択可+「その他」)



悪い点

- ◆ オンライン授業を受けてみて感じたデメリットをチェックしてください

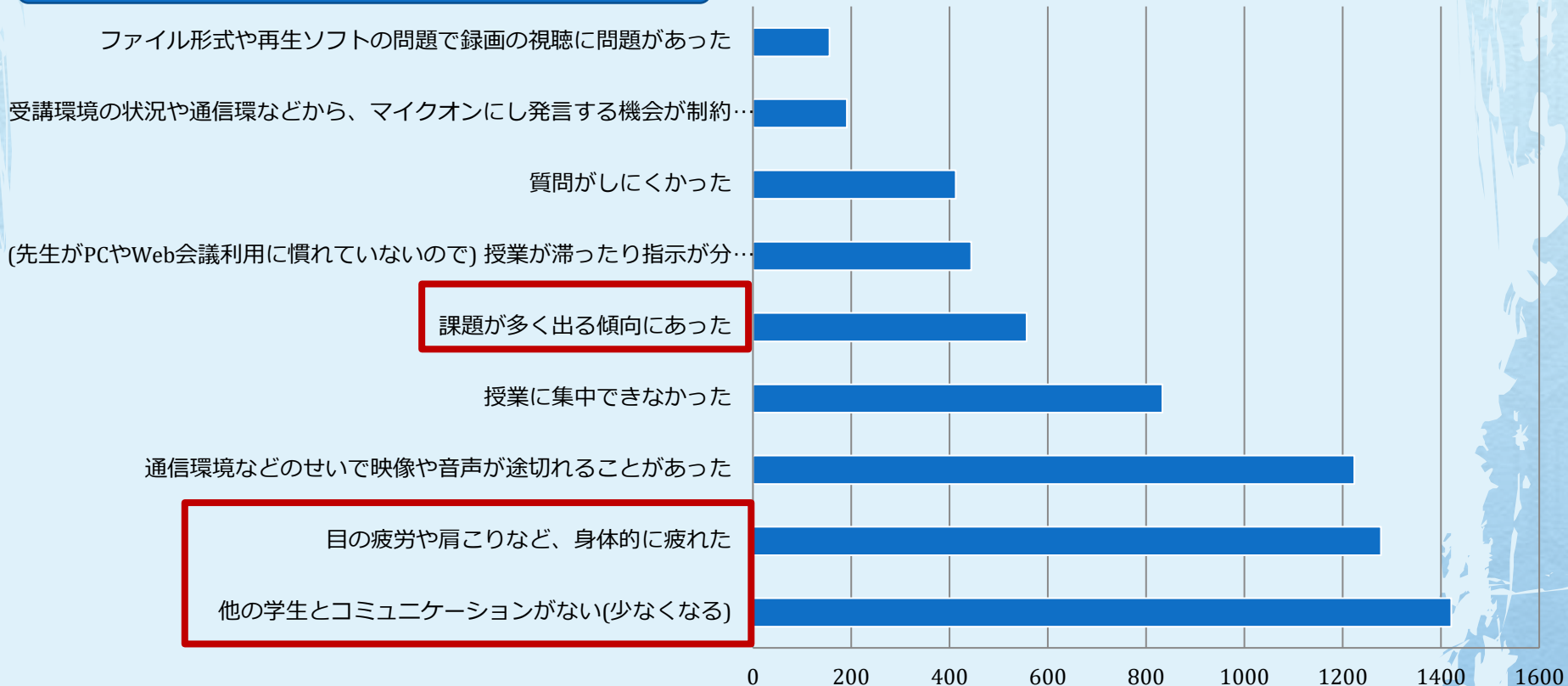
前回



悪い点

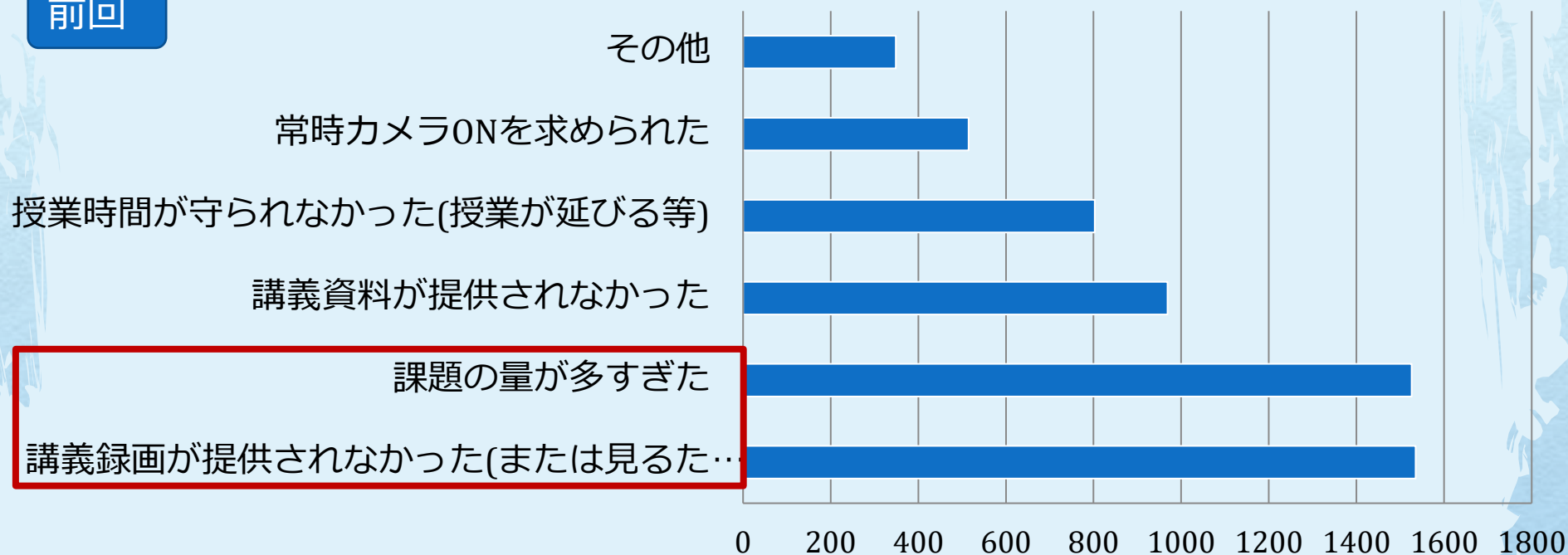
- ◆ オンライン授業を受けてみて感じたデメリットをチェックしてください

今回: 課題地獄の声が少し減ったか



Q.受講したオンライン授業で実際に経験し、「やめてほしい」と思ったことがあればチェックしてください

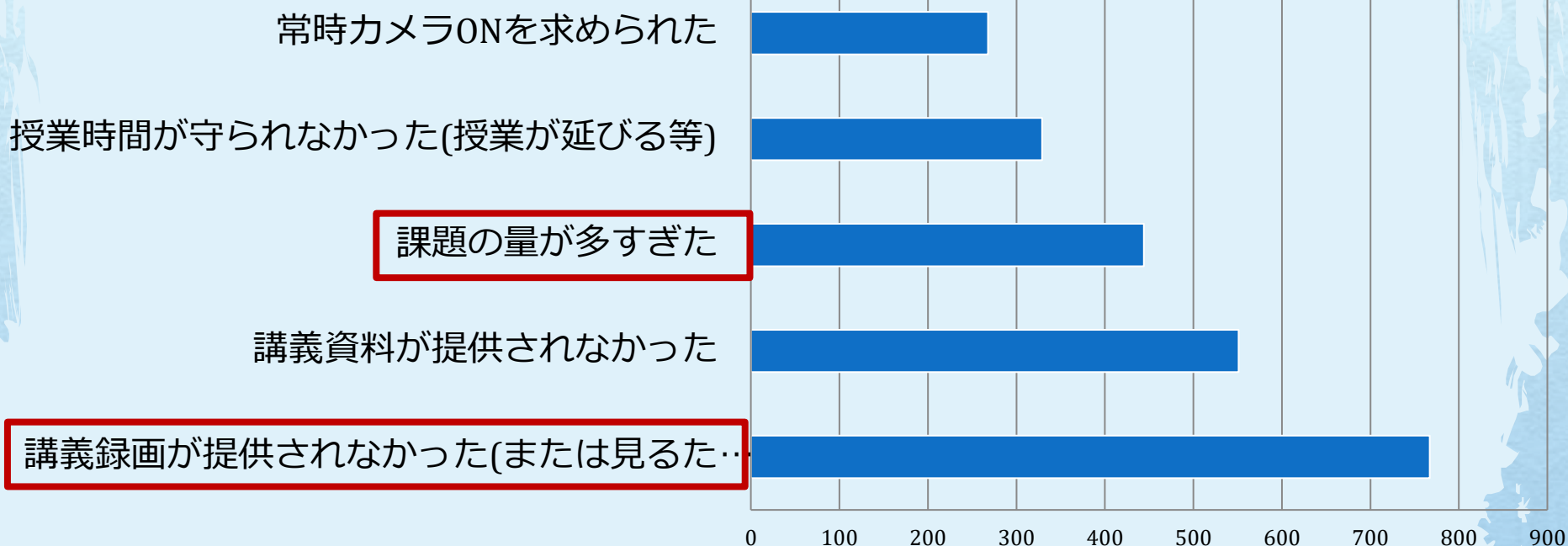
前回



- ◆ 録画は技術的トラブルへの備え、学生の学習の助けのため録ることを推奨していますが、授業内容やプライバシーへの配慮など適切に判断し、最終的には学部、学科等の方針をご確認下さい

Q.受講したオンライン授業で実際に経験し、「やめてほしい」と思ったことがあればチェックしてください

今回：課題の重さに関する不満はやや減った



- ◆ 録画は技術的トラブルへの備え、学生の学習の助けのため録ることを推奨していますが、授業内容やプライバシーへの配慮など適切に判断し、最終的には学部、学科等の方針をご確認下さい

内容

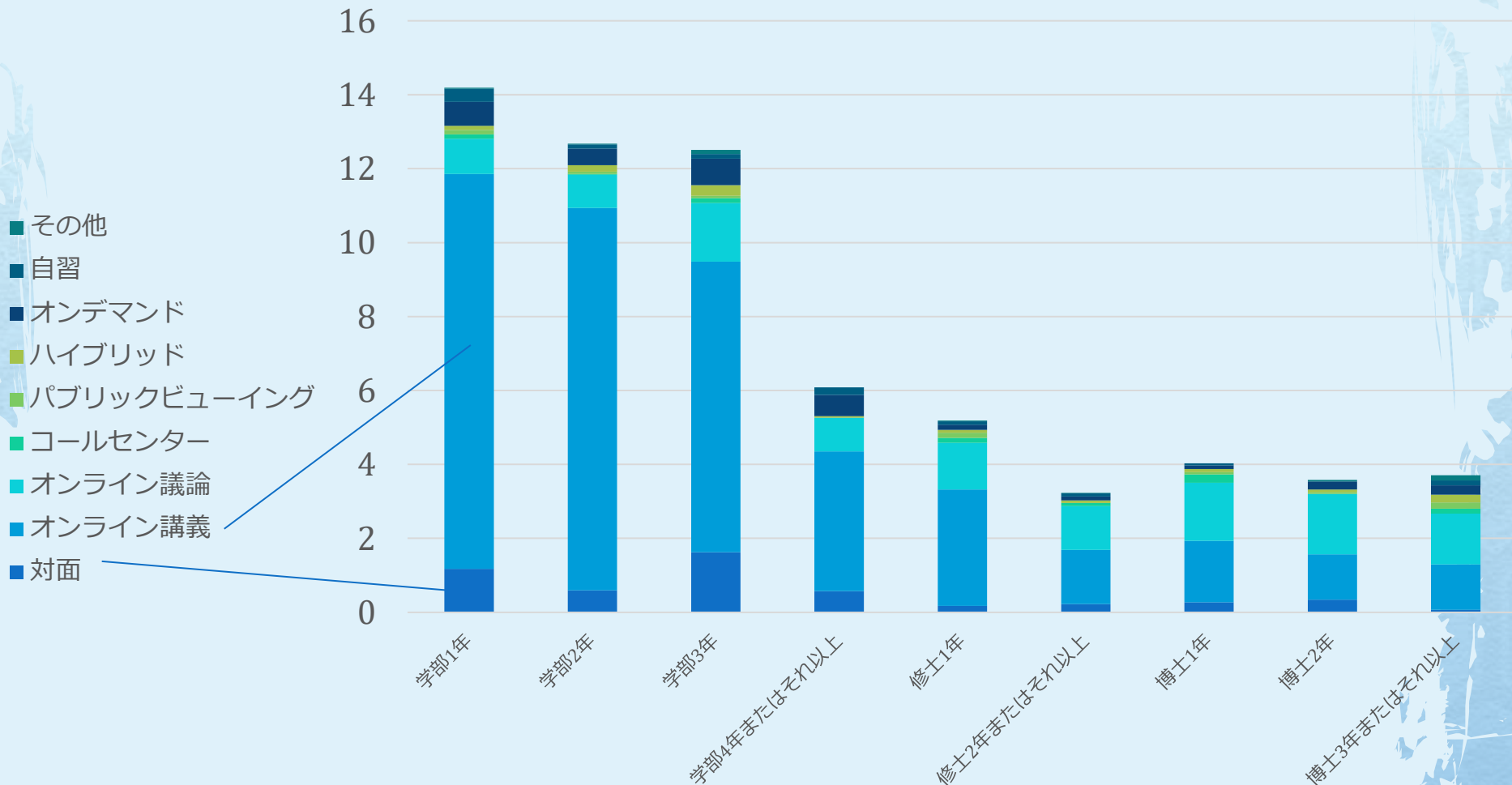
- ◆ 授業に対する評価
- ◆ 授業実施形態・登校について
- ◆ 学生の不安・苦痛について

Q. 週に受けているオンライン授業のコマ数(ほとんど出席していないものは除く)を, 形式ごとに教えてください。

◆ 形式 (再掲)

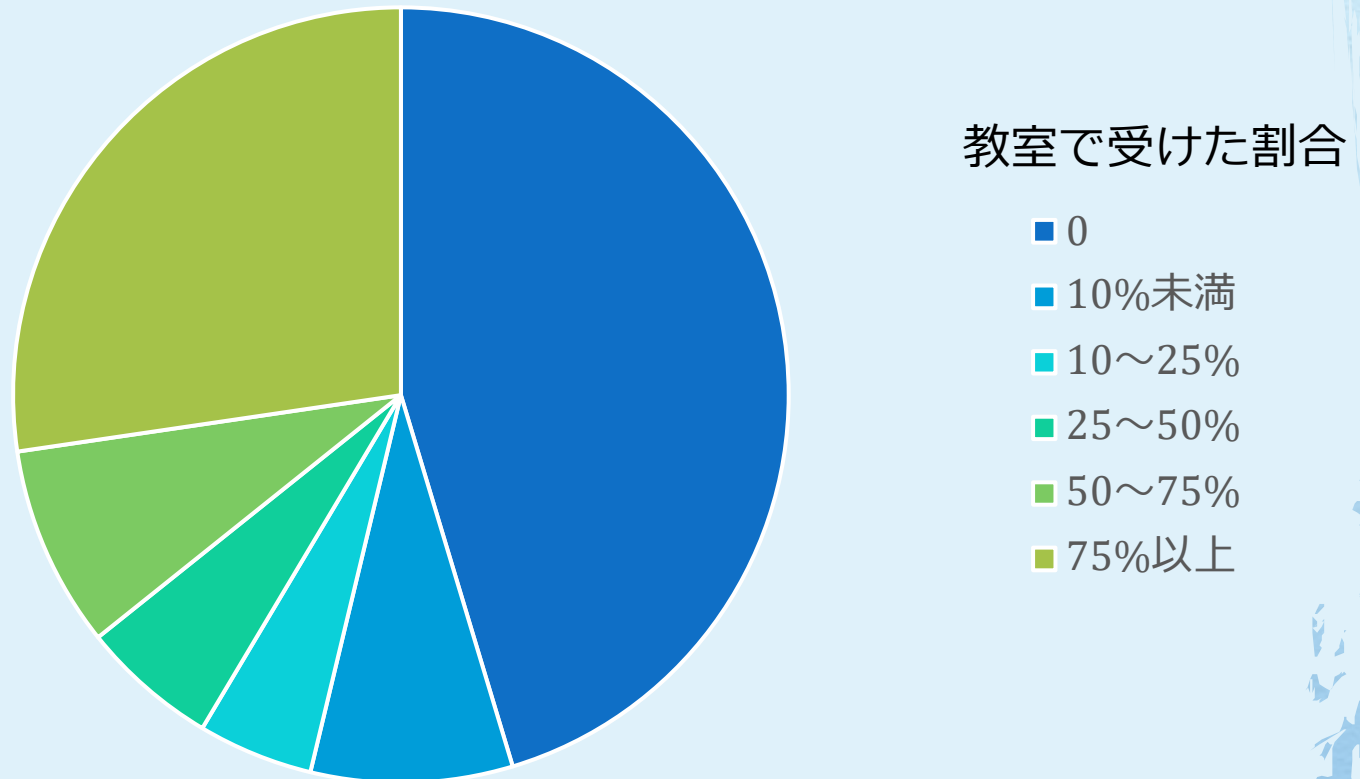
- ◆ 対面 : 教員も学生も教室
- ◆ ライブ (講義) : 教員による講義中心
- ◆ ライブ (議論) : 学生による議論中心
- ◆ コールセンター : 学生だけ教室でZoom
- ◆ パブリックビューイング : 学生だけ教室でスクリーン視聴
- ◆ ハイブリッド : 教員は教室、学生は教室でも家でも
- ◆ オンデマンド : 録画されたビデオの配信
- ◆ 次週 : 資料配布と自習中心
- ◆ その他 : 上記の混合など

形式ごとの履修コマ数/週



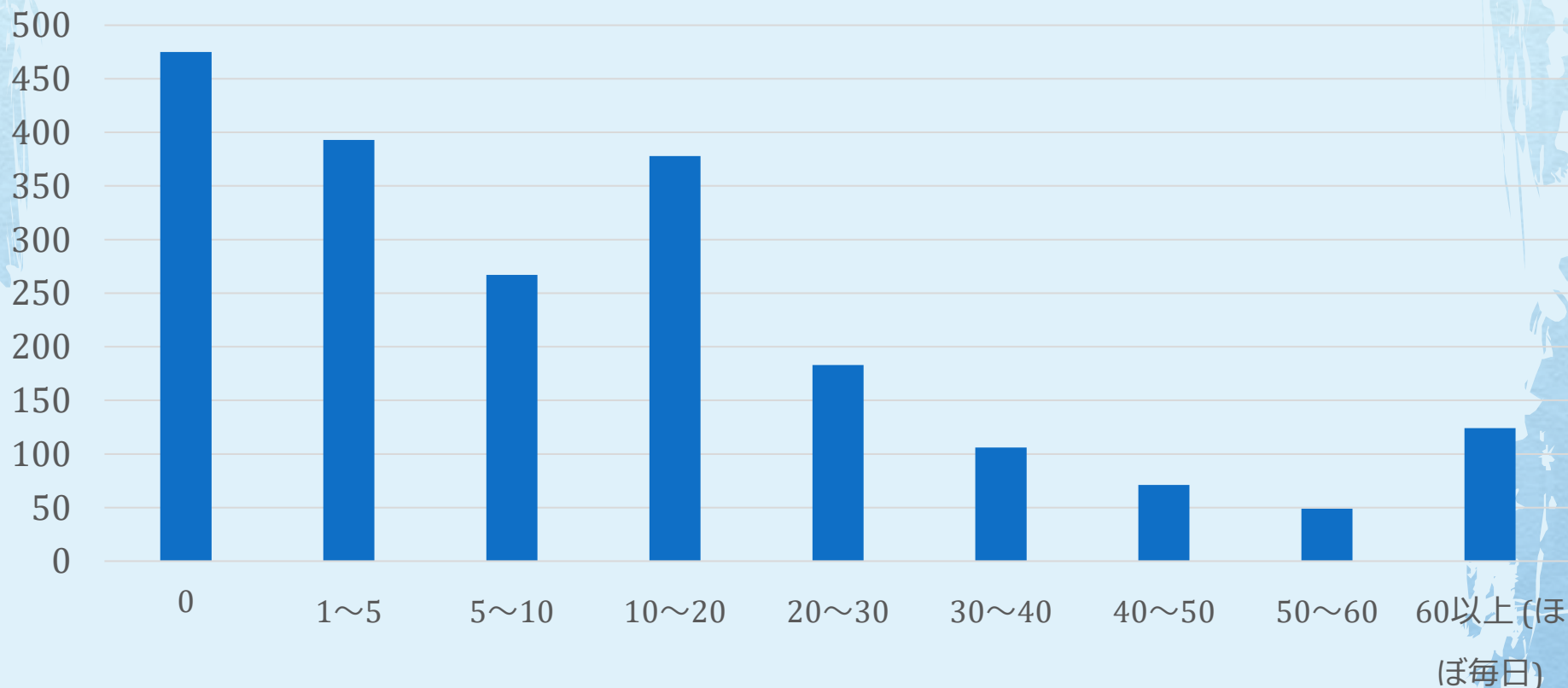
ハイブリッドで教室に来たか？

- ◆ ハイフレックス(教員が教室におり、学生は教室で受けても学外(主に自宅)から受けても良い)形式の授業について、あなたは主にどのように参加しましたか？ (a~bはa以上b未満を表します)



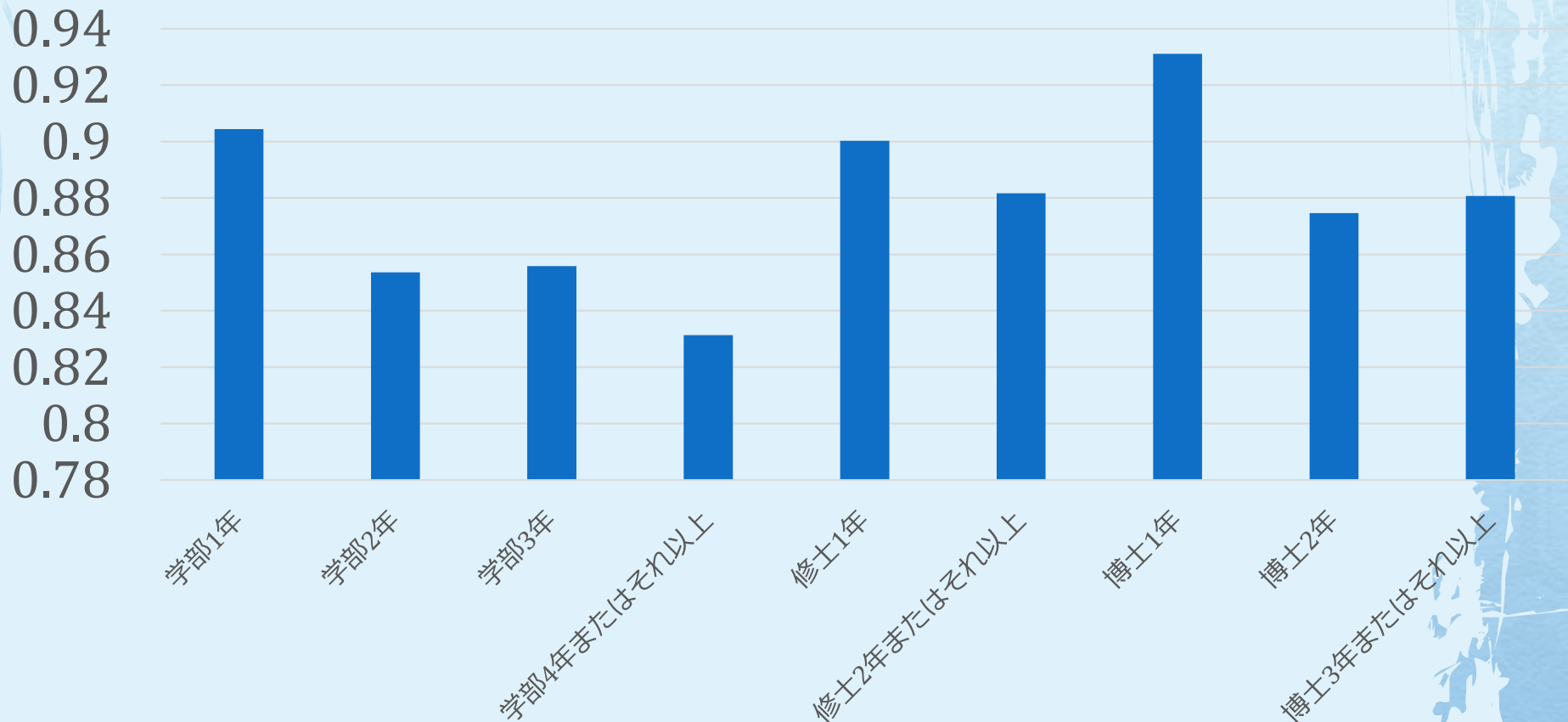
登校日数

- ◆ Aセメスタの授業が行われた期間中(およそ70日の平日があります)のうち、およそ何日くらい登校しましたか？授業のため、研究のためなど、理由は問いません。なお、Aセメスタの授業は1コマにつき13回あるので、週に1日登校すると13日の登校となります。(a~bはa以上b未満を表します)



学年ごとの平均出席率

◆ 全学年で平均80%以上（一年生>90%）



内容

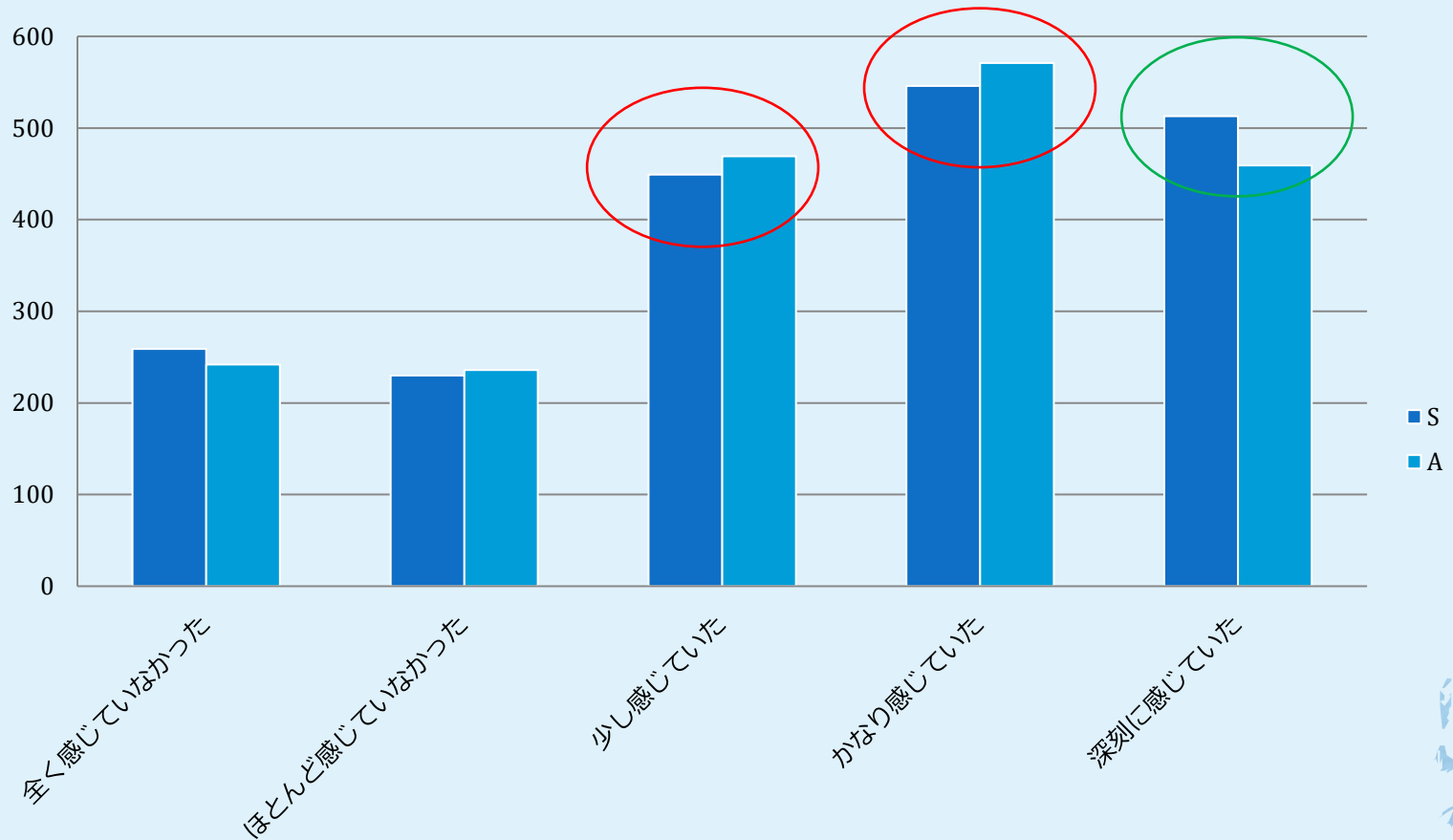
- ◆ 授業に対する評価
- ◆ 授業実施形態・登校について
- ◆ 学生の不安・苦痛について

学生の不安・苦痛について

- ◆ 質問文：Sセメスタ、Aセメスタを振り返って、以下のような不安・苦痛をどれだけ感じていたかについて教えてください
- ◆ S, A両セメスタに対して答えてもらう

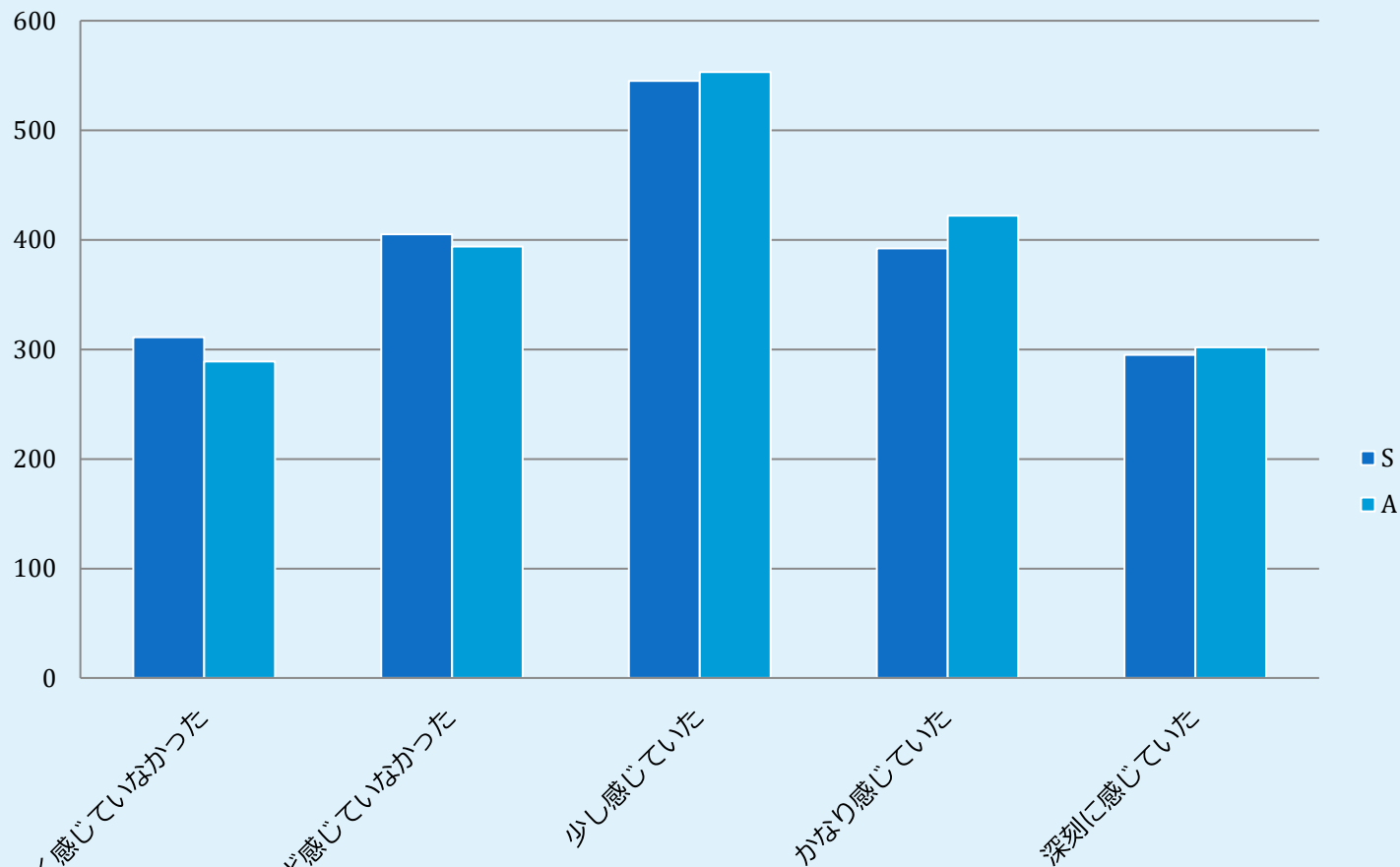
友達との交流が少なくなる

◆ Aで「深刻」は微減するも依然高い

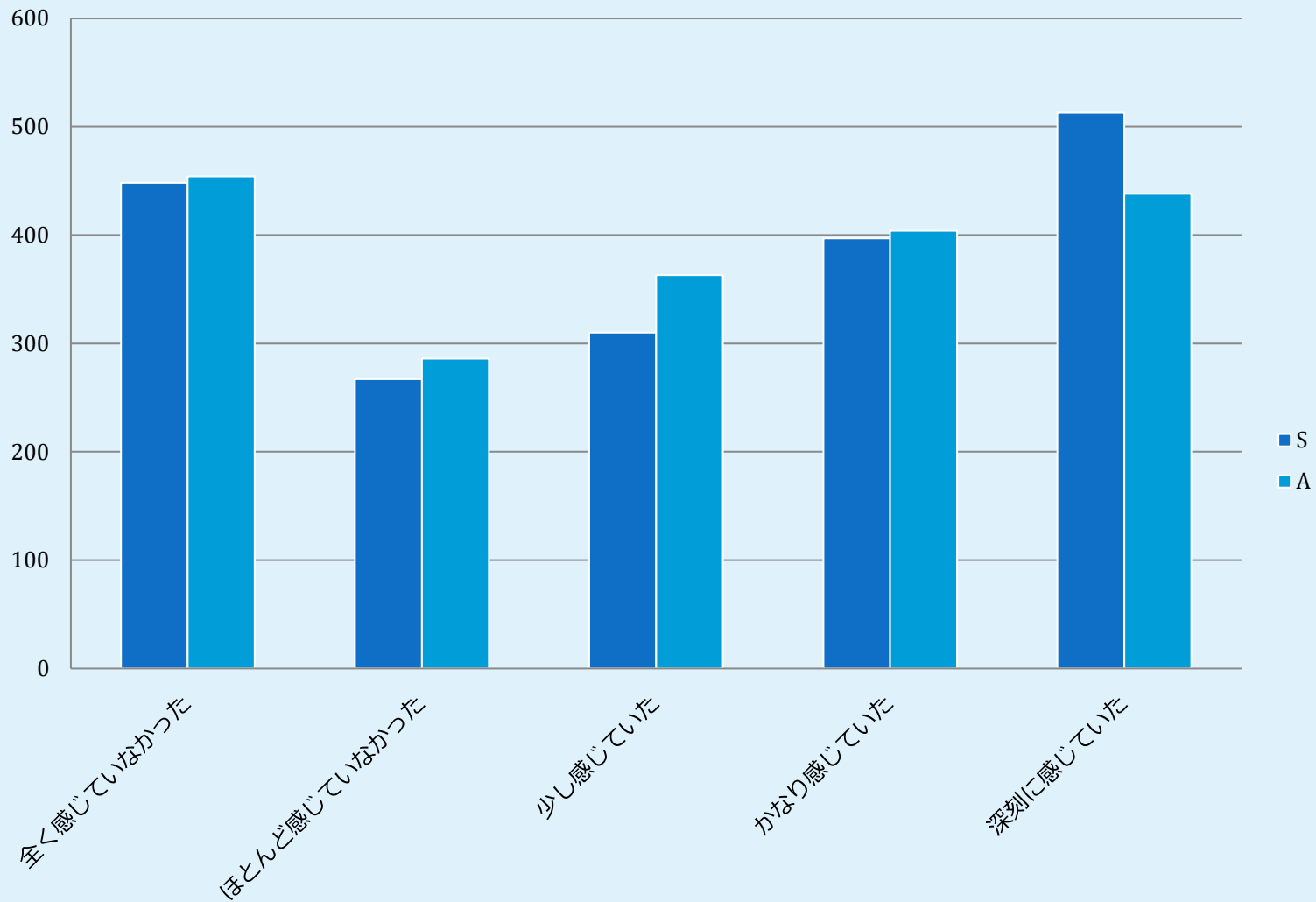


先生との交流が少なくなる

◆ 先生 < 友達



課外活動ができなくなる

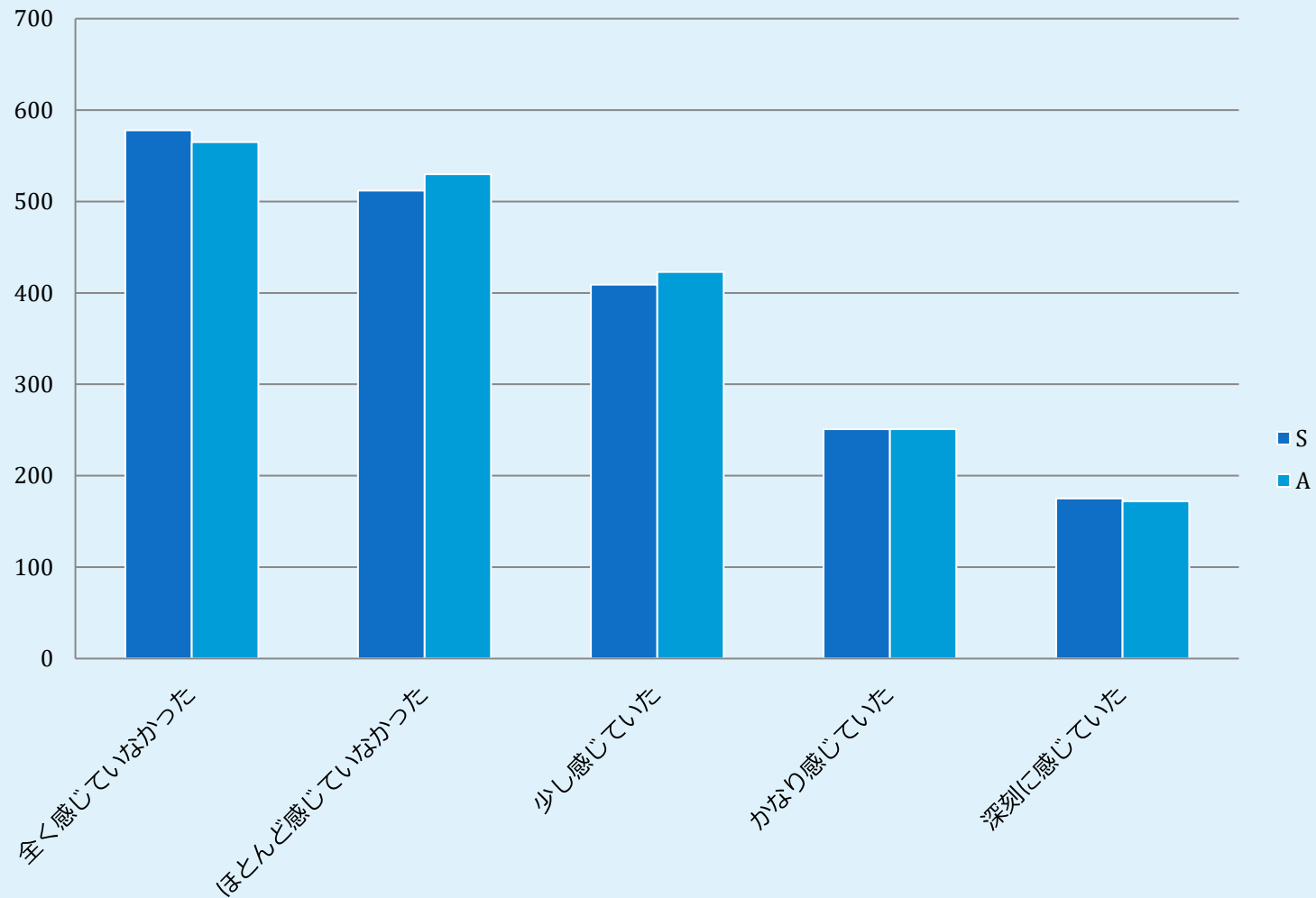


課題が重いこと

◆ Aで「深刻」は減少



授業についていけてないのではと いう不安



要約（私見）

- ◆ 事実：対面・ハイブリッドの評価は高い
- ◆ 交流の少なさ・課外活動ができないことへの不安・苦痛は改善しているものの依然としてある
- ◆ ハイブリッドへ教室参加は少ない（解釈が難しい）
 - ◆ 一斉に登校する機会を「作る」ことの必要性
 - ◆ 「来てもいいよ」ではなく
- ◆ オンラインでの出席率の高さ、教室のキャパを上回る、他学科聴講が増えた講義などオンラインの良い面も
- ◆ 学生も移動不要・登校不要、講義録画、他学科聴講、電子資料の当然化などのメリットは（交流が自由にできるようになった暁に）享受し続けたいのではないか